

NTロードバインダー

「NTロードバインダー」は、常温硬化型エポキシ樹脂無溶剤形クリヤータイプの樹脂系すべり止め舗装材です。アスファルトやコンクリート、金属面などの下地に強力に付着します。耐久性に優れ、視認性向上、事故防止、意匠性・景観性向上などのさまざまなニーズに最適な舗装材です。

※下地の種類が透水性アスコン(開粒アスファルト)の場合や、接着強度の弱いアスファルトの場合、別途下地処理が必要となります。最寄りの営業所までお問合せください。



特長

- ①セラミック骨材を散布することで高い滑り抵抗性を得ることができます。
- ②樹脂舗装技術協会の品質規格に準拠した可とう性エポキシ樹脂系バインダーです。
- ③アスファルト、コンクリート、金属面などの下地に強力な付着性を示します。
- ④耐摩耗性、耐衝撃性、耐久性があります。
- ⑤用途に合わせ、骨材の大きさが選べます。

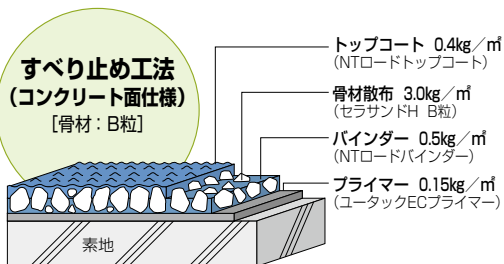
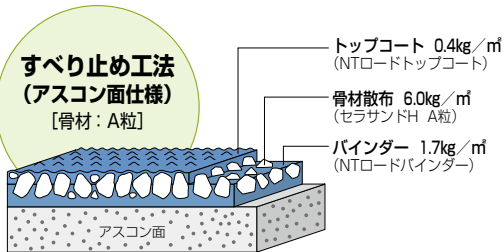
主な用途

- 遊歩道・遊園地・広場・公園・エントランス(アスコン、コンクリート面)
- 歩道橋・地下道(アスコン、コンクリート面)
- 駐車場・駐輪場(アスコン、コンクリート面)
- 景観舗装(アスコン、コンクリート面)

●=おすすめできる場所
○=使用可能な場所

工法

- 本工法以外については、最寄りの営業所までお問い合わせください。
- 骨材散布は、バインダーが硬化し始めないうちに行ってください。
- 骨材が一部脱落するため、交通解放後に路側面の骨材回収・清掃を行ってください。



- B粒(歩行用のスロープや駐輪場)
- A粒(歩行用の急勾配スロープや駐車場)
- A-1粒(車用のスロープ)

色彩

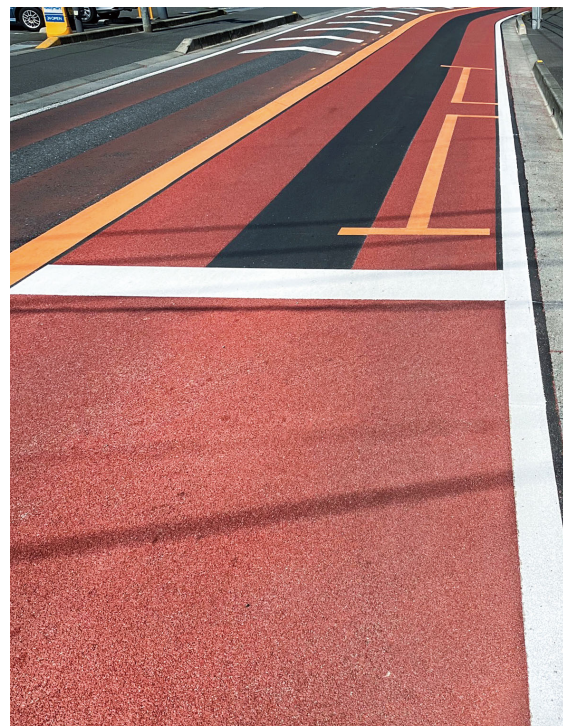
標準色5色

※本標準色は「NTロードトップコート」の標準色です。



荷姿

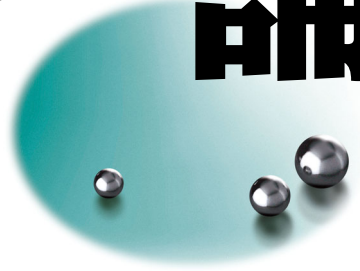
- ユータックECプライマー……
16kgセット(A液: 12kg、B液: 4kg)
4kgセット(A液: 3kg、B: 1kg)
 - NT金属用プライマーECO……
16.5kgセット(A液: 15kg、B液: 1.5kg)
3.3kgセット(A液: 3kg、B液: 0.3kg)
 - NTロードバインダー……
15kgセット(A液: 9kg、B液: 6kg※1)
 - NTロードバインダーSC※2……
40kgセット(A液: 20kg、B液: 20kg)
 - セラサンドHW (ホワイト) ……25kg※3
 - セラサンドHB (ブルー) ……25kg※3
 - セラサンドHG (グリーン) ……25kg※3
 - セラサンドHR (レッド) ……25kg※3
 - セラサンドHY (イエロー) ……25kg※3
 - NTロードトップコート ……15kg
(クリヤー、レッド、イエロー、グリーン、ブラック、ブルー、ETCブルー)
 - NTロードトップコートシンナー ……16ℓ
 - NTロードトップコートシンナーS※4……16ℓ
- ※1: H型(使用目安温度5℃~15℃)、M型(使用目安温度15~35℃)
 ※2: スプレータイプ(専用の吹付機が必要です)
 ※3: 粒径: B粒(0.5~1.0mm)、A粒(1.0~2.0mm)、A-1粒(2.0~3.0mm)
 ※4: 夏用シンナー(使用目安温度30℃以上)



ニットクの塗り床材

ユータックシリーズ カラー舗装材

【改訂第6版】



- シリカ反応型水性形・カラー舗装材(1液)

ユータックテクノONE

一般社団法人日本塗料工業会登録番号=N03245~N03247

- シリカ反応型水性形・カラー舗装材(1液)

ユータックテクノ遮熱ONE

- シリカ反応型水性形・カラー舗装材(2液)

ユータックシリカ遮熱

- アクリル樹脂水性形・カラー舗装材(1液)

水性ユータックAS

F☆☆☆☆ (ホルムアルデヒド規制適合品/室内使用無制限)

一般社団法人日本塗料工業会登録番号=N03054、N03053

- ゴムチップ・ウレタン複合弾性形・カラー舗装材(2液)

ユータックUグラウンドコート

F☆☆☆☆ (ホルムアルデヒド規制適合品/室内使用無制限)

一般社団法人日本塗料工業会登録番号=N03133

- エポキシ樹脂自然石調透水形・カラー舗装材(2液)

ユータックEナチュラル

F☆☆☆☆ (ホルムアルデヒド規制適合品/室内使用無制限)

一般社団法人日本塗料工業会登録番号=N03088

- エポキシ樹脂無溶剤形・カラー舗装材(2液)

ユータックE-30(K)

- MMA樹脂・カラー舗装材(多液)

ユータックオリゴマー

すべり止め舗装工法

- MMA樹脂・カラー舗装材(多液)

ユータックオリゴマー

景観舗装工法

- エポキシ樹脂無溶剤形・樹脂系カラーすべり止め舗装材(2液)

NTロードバインダー

JIS K 5970 建物用床塗料認証品

■認証番号 JP0309002

●ユータック水性カチオンプライマー ●ユータックECプライマー ●NT水性速乾プライマー

ユータック素地調整仕様

理想的な表面仕上げを行うためには、確実な素地状況の確認と素地調整が必要です。下地の状況(強度・乾燥状態・表層状態・仕上精度・構造)によっては、塗り床材としての本来の性能が発揮されない場合があります。

素地

- ①素地のモルタル、コンクリートは金ゴテで平滑に仕上げてください。
- ②コンクリート、モルタルには十分な強度が必要です。
 - 表面強度……1.5N/mm²以上
 - 圧縮強度……21N/mm²以上
- ③打設後の養生は充分に行ってください。
 - コンクリート……夏季(打設後3週間以上)、冬季(打設後4週間以上)
 - モルタル……夏季(打設後2週間以上)、冬季(打設後3週間以上)(ケツト科学水分計 HI-500または520-2 コンクリートレンジの表示値が5%以下)
※デッキプレートなどに打設した場合は乾燥が遅れますので、さらに乾燥養生が必要となります。
- ④コンクリート、モルタルの下から、水や湿気が上昇するような構造の場合は防湿層が必要となります。

素地調整

- ①表面は凹凸のないよう平滑にしてください。
- ②表面のレイトンスは研削機(ライナックスなど)やポリリッシャーなどの研磨機で除去してください。
- ③素地の欠損部は施工に適した素地調整材を用いて平滑にしてください。
- ④素地の油脂やゴミ、ほこりなどは完全に除去してください。
- ⑤素地の吸い込みが激しい場合はプライマーを十分に浸透させ、目止めになるように塗布してください。
- ⑥素地の水濡れ、屋外での雨天時の施工は塗膜のフクレ、剥離、硬化不良の原因となりますので絶対に避けてください。
- ⑦水を使用する箇所では水勾配をコンクリート、モルタルなどで取ってください。

●レイトンスとは……

コンクリートの骨材中の泥やセメントに含む粘土が浮き水で上昇し、乾燥固化した粉状の層であり、皮スキなどでこすると簡単に取れます。このレイトンス層は塗料との付着性を阻害し、剥離を起こす要因となります。



強化コンクリート・緻密コンクリート・アスコン(アスファルトコンクリート)

■強化コンクリート

着色された鉋物系コンクリート(カラーコンクリート)は非常に強度があり、表面が緻密なコンクリートです。これらの強化コンクリートは塗料を吸い込みにくく、付着性が悪く簡単に剥離する可能性があります。そのため、物理的に付着性を向上させる必要があり、研削機(ライナックスなど)やブラストなどで表層を研磨し、表面を粗面にする必要があります。

■緻密コンクリート

コンクリート打設時に機械押さえ処理を行った場合やコンクリートへの水の配合比が少ない場合などは、下地の表面が緻密になる傾向があります。その場合、コンクリート表面に艶が生じ、上記と同様に塗料が吸い込みにくく、塗料の付着が弱くなるため、研削機(ライナックスなど)やブラストなどで表層を研磨し、表面を粗面にする必要があります。

■アスコン(アスファルトコンクリート)

※塗り床材の種類・用途により、施工可能なものと不可能な場合があります。詳細は最寄りの営業所までお問い合わせください。

●素地

- ①アスコンは密粒アスコンとし、凹凸のないように均一に打設してください。
- ②アスコン施工時の転圧は充分に行い、強度のある下地を形成してください。
- ③新規打設の場合は1週間以上の養生期間をとるようにしてください。
- ④アスコン転圧時の油分が付着または残っていないようにしてください。
- ⑤降雨などにより、下地の水分が多い場合は充分に乾燥させてください。

●素地調整

- ①泥などの汚れ、異物が付着している場合は、すべて除去後に表面を清掃してください。
- ②5mm以上の段違いがある場合は、あらかじめ補修してください(別途に費用が必要となります)。

ユータック改修下地調整仕様

改修下地の品質

項目	品質	不具合の可能性
素地表面強度	1.5N/mm ² 以上(建研式接着力試験機)	剥離、フクレ
素地圧縮強度	21N/mm ² 以上	凹み
既存塗膜の付着強度	1.0N/mm ² 以上(建研式接着力試験機) ^{※1}	剥離
素地含水率	5%以下(ケツト科学水分計HI-500またはHI-520-2のコンクリートレンジ)	剥離、フクレ、発泡
表面状態	油分など付着阻害物質が除去されていること	剥離、フクレ、ハジキ、しわ

※1：既存塗膜の付着強度は、改修材料、使用目的により基準は異なります。
また、塗り重ねを行う塗り床材との組み合わせにより、既存塗膜の撤去が条件となる場合があります。

改修下地調整方法

■強化コンクリート素地

- カラーコンクリート……………コンクリート一体型の着色がされている。
- 金属系コンクリート一体型工法……………コンクリート表面に金属フレークが見える。
- 表面強化剤……………表面に光沢があり、水分がしみ込まない平滑な床面
研削機(ライナックスなど)やブラストによる研磨が必要となり、プライマーの付着試験が必要です。

■湿潤面

送風機や換気扇などにより通風を良くし自然乾燥を行ってください。工期の制約がある場合、ジェットヒーターやバーナーなどで強制乾燥を行ってください。素地の脆弱層は研磨を行ってください。
*水分を使わない場所で、素地の濡れ色や既存塗膜裏面に湿潤が確認された場合は、施主、元請と協議を行い防湿層、水路の確認を行ってください。

■油潤面

固化した油分をケレン除去した後、動植物油はアルカリ性洗剤や専用薬剤で、機械油は中性洗剤や専用薬剤でそれぞれ除去してください。素地に染み込んでいる場合は、はつり機で含浸層を撤去してください。
*素地の脆弱化が進行しているため、健全な層まで研削を行ってください。

■ひび割れ

ひび割れに沿ってUまたはVカットを行ったのち、樹脂モルタルや樹脂パテで埋め戻しを行ってください。微細なひび割れは、樹脂パテで埋め戻しを行ってください。
*動きのあるひび割れや深いひび割れ箇所は、露出仕上げとしてシーリング材などで仕上げを行ってください。

■ワックス塗布

ユータックEシンナーなどを既存塗膜面に少量たらし、指でシンナーがなくなるまでラビングを行ってください。シンナーが完全乾燥したのち、ラビングした外周が白くなった場合、ワックスが塗布されています。
*ワックスリムーバーなどを用いワックスを除去したのち、研削機(ライナックスなど)やポリリッシャーによる目粗しを行ってください。

■既存塗膜

既存塗膜の種類を確認し、不具合箇所を撤去したのち、研削機(ライナックスなど)やポリリッシャーによる目粗しを行ってください。

■※1 C.S.R.値とすべりの程度の関係

C.S.R.	すべりの程度
1.0以上	きわめてすべらない
1.0未満～0.8以上	かなりすべらない
0.8未満～0.6以上	あまりすべらない
0.6未満～0.4以上	すこしすべる
0.4未満～0.2以上	かなりすべる
0.2未満	きわめてすべる

注/評価範囲は上限数値以下で、下限数値を含みません。

■※2 BPN測定値(ポータブルスキッドレジスタンステスター)とすべり程度の関係

濡れた路面すべり抵抗	すべり抵抗標準
65以上	良好：高速走行でも必要条件を満たすすべり事故を繰り返さないようなところ
55以上	概して満足：非常に悪い条件がなければ満足できる。
45以上	良好な環境条件においてのみ満足
45以下	著しくすべりやすい

ユータック用途別品種一覧表

●=おすすめできる場所 ○=使用可能な場所

本一覧表は代表的な目安として記載しております。「●=おすすめできる場所」「○=使用可能な場所」を記載しております。●印の工法でも、とくに弊社が塗膜性能・コストを含めてお勧めします工法は **推奨工法** 印を表示しております。ご不明な点は、お気軽に最寄りの営業所までお問い合わせください。

		ユー タック スー パ一 F ハ一 ド N	ユー タック F E コ	N T ス プ レ一 タイ P H	ユー タック E I 30 E C O	ユー タック E I 30 N	ユー タック E I 30 N ロ一 ラ一 用	ユー タック ク イック E I E 2	ユー タック オ リ ゴ マ一	ユー タック オ リ ゴ マ一 低 臭	ユー タック V E I 100 ・ V E I 200
各種工場床 右記以外の使用個所につきましても各種の仕様をそろえています。	印刷工場(インク・溶剤などの使用個所)	○			○	○	○				●
	製薬工場(薬品などの使用個所)	●	●		●	●	●		○	○	●
	食品製造加工工場・清涼飲料水工場	○			○	○	○	○	○	○	
	醸造工場	○			○	○	○	○	○	○	●
	機械・部品組立工場・整備工場(機械油などの使用個所)	●			●	●	○				
	弱電工場・精密工場(クリーンルーム)	●			●	●	○				
	化学薬品工場・メッキ工場(化学薬品などの使用個所)	○			○	○	○		○	○	●
	工場の各種廃液処理施設(廃液処理槽・防液堤)				○	○					
工場の事務所・更衣室・食堂・廊下	●	●		○	○	○					
倉庫・搬送床	車両・フォークリフトなどの通行床	●			●	●	○				
	台車・手押し車などの通行床	●			●	●	●				
	冷蔵倉庫・冷凍倉庫	○			○	○			○	○	
	手術室										
教育・福祉施設・ 病院・集合住宅・ 事務所・ バックヤード	研究施設・実験室	●			●	●	○				○
	学校・病院・事務所・ホール・店舗・内部階段・廊下・食堂	●	●	●	●	●					
	バックヤード	●			●	●			●	○	
	マンション開放廊下・エレベーターホール	●	●	●							
	機械室・電気室	○			○	○	○				
	厨房・給食センター・洗浄室	○			○	○			○	○	
	遊歩道・遊園地・広場・公園・エントランス									●	
ギャラリースタンド・ 遊歩道・ 駐車場・駐輪場・ 展示場	アスコン面								●		
	コンクリート面								●	●	
	ギャラリースタンド	●	○	●	○	○					
	体育館		●								
	駅のプラットホーム・コンコース	○		○	○	○			●	●	
	歩道橋・地下道								●		
	アスコン面								●		
	コンクリート面								●	●	
	ゴルフ場歩径路・ジョギングコース										
	アスコン面								○		
コンクリート面	○			○	○			○	○		
展示場	アスコン面								●		
	コンクリート面	●		●	●	●			●	●	
景観舗装	アスコン面								●		
	コンクリート面								●	●	

耐薬品性能一覧表

◎=14日間浸漬／異常なし ●=30日間浸漬／異常なし

		ユータックテクノONE / ユータックテクノ遮熱ONE	ユータックシリカ遮熱	水性ユータックAS	ユータックU グラウンドコート	ユータックエナチュラル	ユータックオリゴマー
酸類	塩酸(5%)	◎	◎	◎	—	—	●
	硫酸(5%)	◎	◎	◎	—	—	●
アルカリ類	飽和石灰水	◎	◎	◎	●	●	●
	アンモニア水(5%)	◎	◎	◎	●	●	●
	水酸化ナトリウム(5%)	◎	◎	◎	●	●	●
	塩化カルシウム(5%)	◎	◎	◎	●	●	●
溶剤	ミネラルスピリット	—	—	—	—	—	—
その他	飽和食塩水	◎	◎	◎	●	●	●
	水道水	◎	◎	◎	●	●	●
	モーターオイル	◎	◎	◎	—	●	●
	砂糖水(60%)	●	●	●	●	●	●
	灯油	◎	◎	—	—	—	●
	ガソリン	◎	◎	—	—	—	●
	重油	◎	◎	—	—	—	—

ユータックカラー舗装材 注意事項

- 結露や強風、降雨、降雪が予測される場合や、気温が35℃以上の高温下、5℃以下の低温下、湿度80%以上の高湿度下での施工は避けてください。未乾燥状態で水分の影響を受けると艶引け、造膜不良、白化、付着不良、変色などの現象が発生し、仕上がり悪くなるばかりか性能が発揮されませんので、乾燥までの時間を考慮して作業を終了してください。但し、前述の気温、湿度は目安の数値です。
- 施工現場の条件が上記条件を外れる場合、施工を取りやめるか、ジェットヒーター、送風機、スポットクーラー、除湿機などを用いて、施工現場、および材料の温湿度を適正な状態に保つよう処理を行ってください。
- 施工間隔(乾燥時間)は施工現場の温度、湿度、風通し、素地の状態などにより変わります。
- 気温5℃以上での塗装が可能です。気温が低い場合は塗膜の乾燥時間が長くなりますので施工間隔が変わります。特に、エポキシ樹脂系塗料の硬化は遅くなります。
- 施工後、夜間に気温が低下し、硬化乾燥が遅くなる場合があります。特に5℃以下になりますと硬化速度が遅くなりますので、施工後の養生温度には気を付けてください。
- 冬季に施工終了後、塗膜乾燥工程で0℃以下になった場合、塗膜の造膜不良となり、凸凹割れ、白化、付着不良などの現象が発生し、塗膜耐久性に影響します。このため、塗膜養生を考慮して早めに作業を終了してください。
- 硬化が不十分な状態で結露、雷雨の吹込み、漏水などで塗膜表面に水が付き着ると、表面の光沢低下や白化の原因となります。これらの恐れがある場合は、事前に対策を講じ、適切な条件下にて施工してください。
- 外部と接している出入り口や開口部は、屋内でも屋外と同じような条件になる場合があります。塗料をご使用前に必ず、現場を確認し、それぞれに対応した処置を行ってください。
- 強風の場合、外部と接している出入り口や窓からの風の影響により硬化前の塗膜に不具合が発生する場合があります。強風の場合、施工をやめるか対策を充分に取って施工してください。
- 素地の種類によって付着不良となることがあります。あらかじめ適切な処置を行い、試し塗りを行った後、仕様を決めてください。基材の種類が不明な場合も同様です。
- 改修工事の場合、既存塗膜の種類によっては溶剤などの影響により既存塗膜を剥離リフティング(塗膜の手直し)やフクレが発生する場合がありますので、既存塗膜を必ず確認の上塗装仕様を決定してください。
- 特定化学物質障害予防規則の対象となる塗料は、同規則に従い作業責任者を選任するなどの法令遵守をお願いします。
- 塗料の種類によっては、揮発性の化学物質(有機溶剤など)を含なり、溶剤やモノマーなどの蒸気や樹脂の臭気が発生する場合があります。あらかじめ元請や施工、近隣住民への説明を行い、了解を得てください。また、臭気が周辺にある物に付着する場合があります。塗装周辺のものは室内から移動し、臭気がつかないような対策を行ってください。
- また、自然換気ができない密室、ビッドなどの施工においては強制換気が必要となります。適用法令に従い、適切な換気装置の設定、作業責任者の選任、送気マスクや有機ガス用防毒マスクなどの保護具の着用など、適切な対応をしてください。
- 研削機などの使用により騒音や粉じん、振動が発生する場合があります。騒音や粉じん対策を充分に行い、必要に応じて元請や施工、近隣住民へ説明を行い、了解を得てください。
- 色見板や色見本板は、使用現場での光源により色が異なって見える場合があります。色を重視する場合は、使用現場での実際の光源を利用して色を確認してください。
- 施工するコンクリート床面の下に防湿層があるかどうかを確認してください。防湿層がない場合、フクレが発生する場合があります。フクレ対策には樹脂系エポキシ工法が有効です。
- 下地温度と室温の温度差が大きい施工条件の場合、塗料の表層が先に硬化し、下層が遅れて硬化するためシワなどが発生する場合があります。施工前から温めるなどして下地温度と雰囲気温度の差が小さくなるように施工管理を行ってください。
- 施工時の気温を確認し、施工可能な温度領域にあった塗料や硬化剤を選択し、適切な施工環境を確保してください。低温の場合、硬化反応が進まず塗膜硬度発現の低下や塗膜物性の低下、外観不良が発生します。高温の場合は、可視時間が短くなり硬化が遅くなるためシワや剥離不良や泡抜け痕の発生など仕上り異常が発生する場合があります。

- シリコン系の材料やワックスが施工面に無いか確認してください。これらの成分が床面に残留していたり、塗装作業の近くでシリコン系スプレーが使用されたりすると、施工面に付着するとハジキなどのクレームにつながります。
- 施工面に凍結防止剤が散布されていないことを確認してください。凍結防止剤が散布された面に施工すると付着不良となり塗膜剥離のリスクが高くなります。
- アスファルトコンクリート面に施工する場合、充分な転圧が行われ、適切な養生時間が確保されていることを確認してください。転圧不足、養生不足はアスファルトコンクリートの強度不足、品質低下の原因となり、塗膜剥離などの不具合に繋がります。
- 各製品の取り扱いの際は、個別カタログや仕様書、SDSをご参照ください。
- 塗料の仕様・調合に関する事項
- 仕様書に書かれている数値は標準的なものであり、素地の状態や形状、施工条件、気象条件などにより幅を生じることがあります。
- 規定の使用量が塗られていないと、塗膜性能が発揮されない場合がありますので仕様書の使用量を守って施工してください。
- 塗料の種類により攪拌機の選定を行ってください。回転が速かったり、羽の形状によっては、混合攪拌中に泡を巻き込み施工後泡が残ることがあります。また、攪拌の際に泡が立たないよう注意して行ってください。攪拌時間が長すぎても泡の発生につながります。
- 吸い込みの多い下地の場合には、下塗りを増し塗りしてください。素地の状態によっては、下塗り記載している以上の量を使用する場合があります。
- A液(主剤)、B液(硬化剤)、添加剤は規定通り計量し混合しない硬度が発現しない、べたつきが残るなどの硬化不良や外観不良が発生しますので、ご注意ください。硬化不良が発生した塗膜は除去して、再施工してください。
- 塗料中に仕様書に規定された以上の希釈剤(シンナー)を調合した場合、硬度低下など正常な塗膜物性が得られませんのでご注意ください。特に無溶剤塗料の場合は、硬化不良の原因にもなりますのでご注意ください。
- 希釈率は、試験施工などにより決定し、同一条件で施工してください。ただし、希釈率は色や施工条件により変化しますのでご了承ください。
- 塗料を小分けして使用する場合は、あらかじめ塗料缶の内容物を均一になるように攪拌してから小分けを行い、秤を用いて計量し塗料の調合を行ってください。
- 塗料は調合前に電動攪拌機などで十分に攪拌してください。2液反応硬化タイプの材料、A液とB液、希釈剤(シンナー)は秤を使用し指定の割合で調合して、電動攪拌機などで混合攪拌してください。
- 塗料の希釈は指定希釈剤(シンナー)を必ずご使用ください。希釈剤(シンナー)の種類によっては粘度低下が激しくなったり、乾燥速度に違いが生じたり、また本来の色や艶がでない場合があります。
- NT水性速乾プライマーは、可視時間が短いため、時間内に使用できる量を調べてください。可視時間は厳守してください。可視時間を過ぎた場合、付着不良や艶ムラ・色ムラなどの不具合の原因となります。
- 塗料には、湿気と反応する成分が含まれているものもあります。貯蔵の際は密栓し、冷暗所に保存してください。また開栓後はできるだけ早く早くご使用ください。指定希釈剤以外の混入は絶対に避けてください。
- 塗料の過剰希釈は仕上り不良になることがあります。規定内の希釈量で施工してください。
- 角缶内CA液、B液など複数の材料を混合攪拌する時は、缶の隅や底、側面の材料が混合されていない場合があります。注意して攪拌を行ってください。
- 計量・混合攪拌する作業場所は、養生シートを敷き、材料がこぼれたらすぐに除去してください。缶の底に未混合の材料が付着し、施工面に付着した場合、その部分が硬化不良となります。
- 未混合のA液(主剤)やB液(硬化剤)が施工面にこぼれた場合、きれいに除去してください。その部分が硬化不良や剥離の原因となります。
- 塗料の調合は、施工速度に合わせて行ってください。
- 材料を混合した缶などは使いまわしをしないでください。混合

- の都度、新品を用いるか、洗浄を行った後に使用してください(反応硬化が進んだ材料と混入した場合は、フクレが生じることがあります)。
- 骨材などを入れて調合する場合は、A液(主剤)やB液(硬化剤)を先に調合、攪拌した後、骨材を加えて混合攪拌してください。
- 硬化剤と促進剤を使用する場合はまず促進剤を添加し、十分に攪拌してから硬化剤を添加してください。同時に添加し接触するとゲル物の発生や爆発的な分解を起こし、大変危険ですので決して行わないでください。
- 下地の水勾配が適切に確保されていることを確認してください。施工による勾配調整はできません。また、施工後に水たまりができること、塗膜の白化、艶引け、損傷、剥離などの不具合が発生する場合があります。
- 下地に勾配がある場合、施工した塗料が流れ、硬化途中で塗膜がズレたり、シワが発生する場合があります。勾配がある面に施工する場合は、タレ防止材(ミルコンなど)などを使用して流れないように塗料調整を行ってください。
- 遮熱塗料は塗装後より既存塗膜の色が薄い場合、遮熱(温度低減)効果が得られないケースもありますのでご注意ください。また、色相により遮熱効果が変わります。
- 遮熱塗料は、特殊顔料を使用していますので、経年劣化による褪色の傾向が一般塗料と異なる場合があります。
- 遮熱塗料は特殊な顔料を使用しています。このため、希釈剤の希釈量や使用量が多すぎたり、少なすぎたりすると、色相が変化して見えることがあります。特に上塗り1回目終了段階では使用量が足りないため、色相が変化して見えます。また、遮熱性能や耐候性が低下することもありますので、希釈剤の希釈量や使用量など塗装仕様を厳守して施工してください。
- ユータックオリゴマーなどのメタクリル樹脂系の場合、骨材を規定以上混合した時、硬化不良が発生します。規定量を守ってください。
- ユータックオリゴマーを使用する場合、硬化剤や硬化促進剤などの取り扱いに注意してください。
- ユータックオリゴマー強化プライマー、ニート用中塗、モルタル面用中塗、アスコン面用中塗、レジンモルタル用バインダー、KCC工法用ペースコート、上塗、上塗高耐候性は、加熱や衝撃などにより爆発的に燃焼する恐れがありますので、取り扱いには充分ご注意ください。
- ユータックUグラウンドコートバインダー、ユータックエナチュラル、ユータックE-30(K)、ユータックオリゴマー、NTロードバインダーを混合し、容器中にそのまま放置するとゲル化や急激に発熱し、危険な状態になることがありますので、仕様書の手順を守ってください。
- 2液塗料など多液成分の塗料(エポキシ樹脂系、ウレタン樹脂系、メタクリル樹脂系など)は硬化剤を混合した後は、直ちに施工面に塗面積に対して適切な量を流し、塗り広げてください。缶中に放置して置くと発熱反応により缶中の温度が上昇し可視時間が短くなるばかりでなく、急激な発熱やゲル化、煙が発生するなど大変危険な状態となります。ユータックUグラウンドコートバインダーと艶膜も同様の現象が発生します。
- 防滑仕様は、防滑性能を保証するものではありません。降雨後や塗膜表面に水やオイルなどがある場合、滑る場合がありますのでご注意ください。また、汚れが骨材に付着しやすくなり、施工後初期であっても汚れる可能性があります。
- 一度調合した塗料は必ず可視時間内に使い切るようにしてください。可視時間を過ぎた塗料の使用は行わないでください。作業性、付着力の低下や仕上がり悪くなる場合があります。なお、可視時間は、材料温度と雰囲気温度に依存します。夏場は特に短くなりますのでご注意ください。
- エポキシ樹脂やウレタン樹脂など施工間隔を一定以上経過した場合は、次工程の塗料の付着が低下します。施工間隔を守って施工してください。また施工間隔が、仕様書に規定された時間以上経過した場合は、目粗しなどの処理やプライマーなどを施工する必要があります。
- エポキシ樹脂系塗り床材は、日光や蛍光灯などの光線で変色するケースがありますので、ご注意ください。
- エポキシ樹脂系塗り床材では、硬化の途中で水分と触れまると白化する場合があります。さらに低温(約15℃以下)での硬化の場合(硬化後に水分に触れても)も白化するケースがありますので、ご注意ください。なお、白化が生じても塗膜の物性(性能)には影響がありません。

